

5

Round

JULY 2010

平成22年8月15日発行
第1巻13号

RACING PRESS

**2010 AUTOBACS SUPER GT
ROUND5 SUGO GT 300KM RACE**





**2010 AUTOBACS SUPER GT
ROUNDS 5 SUGO GT 300KM RACE
7/24-25**

SUGO

Text: 吉川 誠

Photo: 鎌谷 康博 (JRPA) / 稲田 浩章 (JRPA)



セパンに続き、ここ東北地方も夏本番を向かえ、灼熱の太陽が照りつけるスポーツランド菅生で開催された。二日間で3万8000人の観客を集め決勝直前の気温33℃、路面温度44℃という過酷な状況下でマシンもドライバーも極限状態で行われた。

今年は第一戦がNISSAN、第二戦がHONDA、第三戦がLEXUS、第四戦では再びNISSANと、優勝マシンも毎戦異なっているだけに菅生大会で、どのチームが優勝するのかは全く予想がつかない。スポーツランド菅生は高低差のある3.7キロのテクニカルコースで、最終コーナーからストレートにかけてのぼり勾配ではマシンパフォーマンスが大きく左右するレースでもある。

また、ポイント争いも一層激しく、GT500ではポイントリーダーの伊藤大輔選手 (LEXUS) を脇坂寿一選手 (LEXUS) 小暮卓史選手 (HONDA) が追う。一方、GT300は今季2勝の谷口信輝選手 (RX-7) と横溝直輝選手 (Z) が同ポイントで、これを井口卓人選手 (カローラ) が追う形で、いずれも目を離せられない。スーパーラップ方式で行われた予戦はMOTUL GTRのプロウ・トレルイエ選手がポールを獲得。GT300クラスはアップル・K-ONE・紫電の加藤寛規選手が見事にクラスポールを奪った。



0.025秒差のドラマチ

KEIHIN HONDA HSV-010が初勝利

GT500

SUGO GT 300km RECE 決勝レース (500クラス)

順位	ゼッケン	車名	ドライバー-A	ドライバー-B
1	17	KEIHIN HSV-010	金石 年弘	塚越 広大
2	18	ウイダー HSV-010	小暮 卓史	ロイック・デュバル
3	6	ENEOS SC430	伊藤 大輔	ピヨン・ビルドハイム
4	12	カルソニック IMPUL GT-R	松田 次生	ロニー・クインタレッリ
4	24	HIS ADVAN KONDO GT-R	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	安田 裕信
6	23	MOTUL AUTECH GT-R	本山 哲	ブノワ・トレルイエ

ドラマはファイナルラップに起こった。トップを走るウイダーHSV小暮卓史選手に最終コーナーでKEIHIN HSVの塚越広大選手が飛び込み、フィニッシュラインを僅かな差、タイムにして0.025秒差で劇的逆転優勝を飾った。塚越選手はGT初勝利。KEIHINも今季初勝利となった。



決勝前に既に3回の赤旗。決勝も荒れたレースになった。



GT300

SUGO GT 300km RECE 決勝レース (300クラス)

順位	ゼッケン	車名	ドライバー-A	ドライバー-B
1	2	アップル・K-ONE・紫電	加藤 寛規	濱口 弘
2	3	HASEMI SPORT TOMICA Z	星野 一樹	柳田 真孝
3	31	エヴァンゲリオン RT初号機aprカローラ	嵯峨 宏紀	松浦 孝亮
4	25	ZENT Porsche RSR	都筑 晶裕	土屋 武士
5	11	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP F430	田中 哲也	平中 克幸
6	43	ARTA Garaiya	新田 守男	高木 真一
18	26	CINE CITTA' タイサンボルシェ	イゴール・スシュコ	植田 正幸

この2戦不連続きの紫電は予選からタイヤのマッチングもよく見事ポール。決勝レースでも加藤寛規選手がスタートドライバーの責任をはたし、濱口弘選手にマジーンを築きバトンタッチ。濱口選手はルーキーながら見事なドライビングで優勝を飾った。

**アップル
K-ONE・紫電**

予選 / 決勝とパーフェクト 初V



2位



NEW CAR

997 PORCHE で登場したのは初音ミク号



3位